

「風を切つてどこまでも」

横浜市立高田小学校6年

木田 千里



私は陸上競技が大好きです。もちろん走ること以外のスポーツも好きですが、陸上は特別です。

走ることが好きになったのはようち園のはじめての運動会。それまでは何も考えず遊びながら走っていました。この時はじめて「競走」という感覚の気持ちよさを感じました。そしてもつともつと走りたいという思いが生まれ、外でよく練習するようになってだんだん自分の走りに自身がついてきました。一年生になった時の運動会でもとても気持ちよく走ることができました。でももつともつと上達したくて、練習を続けました。

三年生になってタイムを気にしはじめてから「速く走ること」について考えはじめ、これからは、「感覚」だけ

でなく「スピード」も意識しようと思いました。

足が速くなるにはどうしたらいいか一生懸命考えました。そして、速く走るとはフォームなどに関係して歩くことに気付きました。

また、長い距離を走れば体力がついてトラックをより速く走ることができるようになりました。けれど私は持病のぜん息で長距離はあまり得意ではありませんでした。みんなと同じトレーニングができないことがくやくして仕方がありませんでした。そこで私はスタートの瞬間を大切にできるようになりました。

今、私が走ることを続けているのは、走っている時のたまらない壮快感、走っている時にしか見えない景色、風を切る時の気持ちよさが大好きだからです。そしてゴールした瞬間の感動を味わいたい。

六年生の夏。私は走ることがもつと好きになることができました。私の小学校に元オリンピック選手の杉本龍勇さんが来てくださったからです。杉本選手は速く走るためのコツをていねいに分かりやすくそして楽しく教えてくださいました。正しい姿勢でのつま先歩きや体を大きく使ったスキップなど今まで経験したことのない練習でしたが、やる度に足が速くなっていく気がしました。授業の最後、トラックを一周した私は風になったような

気がしました。

杉本選手は私たちにこんな言葉をプレゼントしてくださいました。

「努力すること」「我慢すること」

「我慢すること」という言葉が私の心にささりました。小さい我慢はしてきたつもりですが歯をくいしばってまでの我慢は経験がありません。何かを極めるためには努力と我慢が必要だと学びました。

これからも私は走り続けます。陸上競技についてより深く知って、走ることのすばらしさを色々な人たちに伝えていきたいし、走ることが大好きな人が今よりもっと増えて私もその輪の中に入っていきたいです。